

山口大学医学部医学科ディプロマ・ポリシーと医学教育モデル・コア・コンピテンシー対応表

H30.9.12

山口大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー			医学教育モデル・コア・コンピテンシー (2017.5.26 全国医学部長病院長会議) 改定		対応コアカリ(H28)	代表するユニット
<知識・理解>						
1	医療基盤力	医学・医療において基盤となる知識を体系的に身に付け、その知識体系を文化・社会等の学際分野と関連付けて理解し、医学・医療の変化に対応し、新規課題に応用できます。	(1)基礎医学	基礎医学の知識を、疾患の病因・病態・症候等の理解に応用できる。	A-2医学知識と問題対応能力	全てのユニット
			(2)社会医学	社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる。		
			(3)臨床医学	高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・診断・治療・予後の知識を修得し、臨床推論に基づく適切な診療ができる。エビデンスを吟味し臨床判断に応用できる。		
			(4)行動科学	人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる。		
2	地域・国際対応力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保健・医療・福祉・介護及び行政等との連携を理解し、地域における健康の増進と疾病の予防・治療に貢献できる基本的な考え方を身に付けています。 ・医療環境や公衆衛生について国際的視野を持ち、人類・医学の歴史・社会・自然に関する知識を広く身に付け、医師の社会的役割の変化や国際化に対応できます。 	(1)予防医学と健康増進	社会と健康・疾病の関係を理解し、疾病予防や健康増進の活動に参加する。	A-7社会における医療の実践	【地域】 医学入門、環境・予防医学、衛生統計・保健医療学、生活習慣病・疫学・地域医療、社会医学基本実習、社会医学課題実習、臨床実習1、臨床実習2、地域医療実習
			(2)地域医療	地域社会における地域包括ケア・救急医療・在宅医療・健康増進活動等を理解し、その活動に参加する。		
			(3)医療・介護・福祉制度	地域の保健・医療・介護・福祉の制度とシステムを理解し、自身の活動現場においてその知識を活用できる。		
			(4)保険診療・医療経済	国民皆保険の意義を理解し、保険診療に関する法令に従って、医療の経済性に配慮しながら診療を行うことができる。		
			(5)災害医療	災害医療の特殊性とそれに関する組織(DMAT・JMAT等)についての知識を修得し、災害発生時には適切に行動して社会や地域に貢献できる。		
			(6)国際貢献	国際人としての語学力や教養を備え、健康や疾病に関する国際的視野を持ち、国際社会の一員として活動する。		
<態度・技能・志向性>						
3	医療プロフェッソナリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理観:教養を高め、豊かな人間性を涵養し、医師としての社会的責任を自覚して、自己の良心と社会の規範に従って行動し、基礎的な医療倫理問題に対処できます。 ・医師としての職責:多種多様な人間性と生命の尊厳について深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚しています。 ・患者安全:患者及びその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられます。 	(1)医療人としての倫理観	医療人としての倫理に関する基本的な知識を修得し、それに沿って行動する。	A-1プロフェッソナリズム	生命倫理学、医療人類学、行動科学、医学史、医学入門(フレッシュマンセミナー)、医療概論・倫理序説、医療安全学、医療安全フェアトリアル、臨床倫理フェアトリアル、行動医学フェアトリアル、法医学、重点統合ユニット、基盤系特別専門講義、臨床医学序説、プレ臨床実習フェアトリアル、臨床実習入門、多職種連携、臨床推論基本演習、臨床実習1、臨床実習2、地域医療実習、臨床系特別専門講義、実践臨床医学特論
			(2)研究者としての倫理観	研究倫理に関する基本的な知識を身につけて、それに沿って適切な研究活動を行うことができる。		
			(3)利益相反と守秘義務	利益相反が生じる可能性を認識し適切に対処できる。患者のプライバシーを尊重し守秘義務を果たす。		
			(4)利他的・共感的かつ誠実な対応	患者および家族に対し、利他的・共感的に接しながら誠実に対応する。		
			(5)責任感と自己規制	医師としての責任感を持ち、謙虚に自らを律して行動する。		
			(6)社会的責務	医師としての業務に限らず、医師・医療人としての責務および社会からの期待を意識し適切に行動する。		
			(7)患者安全	患者及びその家族の秘密を守り、患者の安全を最優先し、患者中心の立場で考えられる。		
4	チーム医療力とコミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と円滑にコミュニケーションを図り、相互尊重のもとに協調・共働してチーム医療ができます。また、目標実現のためにリーダーシップを発揮できます。 ・医療内容を分かりやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くことができます。 ・英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができます。 	(1)患者医師関係	患者や家族の心理・社会的背景を理解し、誠実な態度で適切な信頼関係を築くことができる。	A-4コミュニケーション能力 A-5チーム医療の実践	医療環境論、医学入門、医療概論・倫理序説、医療安全学、医療安全フェアトリアル、臨床倫理フェアトリアル、行動医学フェアトリアル、社会医学基本実習、社会医学課題実習、重点統合ユニット、多職種連携、臨床実習1、臨床実習2、地域医療実習
			(2)コミュニケーションスキル	わかりやすい言葉を使いながら、冷静に思いやりを持って患者に安心感を与え癒すことができる。		
			(3)医療者間コミュニケーション	必要な情報を共有しながら正確な意思疎通を行い、医療チーム内の信頼関係を構築する。		
			(4)インフォームドコンセント	患者の主体性を尊重しながら、医療行為の必要性・内容・危険性・他の選択肢等を患者に説明し、理解と納得に基づく同意を得る。		
			(5)英語力	英語によるコミュニケーション能力を身に付け、情報収集・論述・国際交流ができる。		
			(6)多職種連携	医療チーム構成員それぞれの役割を理解し尊重しながら、患者中心の最良の医療・介護を提供するために連携することができる。		
			(7)同職種連携	同僚や専門領域が異なる医師の業務を理解し、役割分担・情報共有・意思疎通・相談等を円滑に実行できる。		
			(8)リーダーシップ	最良の医療を提供するために、構成員間の意見の相違や軋轢を調整し、円滑で効果的なチーム医療を先導する。		
5	自己開発力	<ul style="list-style-type: none"> ・医学の修学に積極的に取り組み、生涯にわたり自己研鑽を続ける習慣を身に付け、医学・医療の変化や医師の社会的役割の変化に対応できる自己開発力を身に付けています。 ・ICT(Information & Communication technology)活用能力を持ちます。モラルに則り多様な情報を収集・分析して適正に活用する情報リテラシー力を身に付け、的確なプレゼンテーションなどに活用できます。 	(1)生涯学習	進歩し続ける医療において、常に最新・最善の医療を提供するために、生涯にわたり継続して学ぶ。	A-9生涯にわたって共に学ぶ姿勢	医学入門、医用統計学・医用AI学、重点統合ユニット、自己開発コース、修学論文フェアトリアル、基盤系特別専門講義、臨床実技基本実習、臨床系特別専門講義、実践臨床医学特論
			(2)自己研鑽	自身に対するフィードバックを受入れ、常に自らの知識・能力・振舞いを省察し、生涯にわたり自己の向上に努める。		
			(3)共同学習	提供する医療の質向上のために、同僚や関係者間で建設的なフィードバックを行い、共に教えあい学びあう。		
			(4)後進の育成	後進の模範となるように、自身の態度や表情・雰囲気をもつ影響も十分認識しつつ、後進の育成に努める。		
			(5)ICT活用・情報リテラシー力	ICT(Information & Communication technology)活用能力を持つ。モラルに則り多様な情報を収集・分析して適正に活用する情報リテラシー力を身に付け、的確なプレゼンテーションなどに活用できる。		
<総合力・創造力>						
6	科学的探究力	医学・医療の知識や技術の向上に貢献できる創造的な意欲を有します。自ら課題を発見・提起して、論理的に思考し、解決への道筋を提案します。成果を文書と口頭で発表できます。	(1)リサーチマインド	基礎・臨床・社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を批判的に評価する姿勢を持ち、未知の病態や治療への興味・関心を維持できる。	A-8科学的探究	基盤医学系科目、重点統合ユニット、自己開発コース、修学論文フェアトリアル、基盤系特別専門講義、Open Science Club、高度学術医育育成コース(SCEA/AMRA)、臨床推論基本演習、臨床系特別専門講義
			(2)課題発見と問題解決	医学・医療において既存の知識・技能では対応できない問題点を抽出し、それらを解決する過程に参画することができる。		
			(3)研究成果の発表能力	研究の目的・方法・結果について解析および考察し、それらを適切な形で社会に発信できる。		
7	総合的診療能力	統合された知識・技能・態度に基づき、全身を総合的に診療する実践的能力を修得します。良好な医師患者関係を築けるコミュニケーション能力を有し、患者中心のチーム医療を安全に実践できます。(臨床推論力、基本的診療技能、実践的診療能力、医療安全力が必要)	(1)医療面接	患者の立場を尊重し、病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行う。	A-3診療技能と患者ケア A-6医療の質と安全管理	医療安全学、医療安全フェアトリアル、展開医学系科目、プレ臨床実習フェアトリアル、臨床実技基本実習、臨床推論基本演習、臨床実習1、臨床実習2、地域医療実習
			(2)身体診察	網羅的に系統立てて効率的な身体診察を行い、所見を認識・記録し、適切な鑑別診断を行う。		
			(3)臨床技能	基本的な臨床技能について、適応、実施方法、合併症等を理解し、適切な態度でこれを安全に実施できる。		
			(4)診療録	診療録についての基本的な知識を修得し、問題志向型診療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。		
			(5)プレゼンテーション	患者の病状、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と情報共有ができる。		
			(6)救急医療	緊急を要する病態や疾病・外傷の基本的知識を修得し、医療チームの一員として救急医療に参画する。		
			(7)慢性期医療	慢性疾患の病態・経過・治療を理解し、医療を提供する場や制度に応じて、医療チームの一員として慢性期医療に参画する。		
			(8)患者への配慮	患者の苦痛や感情に配慮しながら、患者と家族に対して誠実で適切な支援を行う。		
			(9)感染対策	医療関連感染の予防対策を実践し、発生時の初期対応ができる。		
			(10)安全管理	医療における患者や医療者の安全を守るために、個人的・組織的な対応ができる。		
			(11)医療の質	組織や自身が実施している医療の質や安全管理について常に振り返り、その改善と向上を図る。		
			(12)実践的診療能力	統合された知識・技能・態度に基づき、全身を総合的に診療することができる。		

赤字は山口大学医学部で独自に設けたコンピテンシー